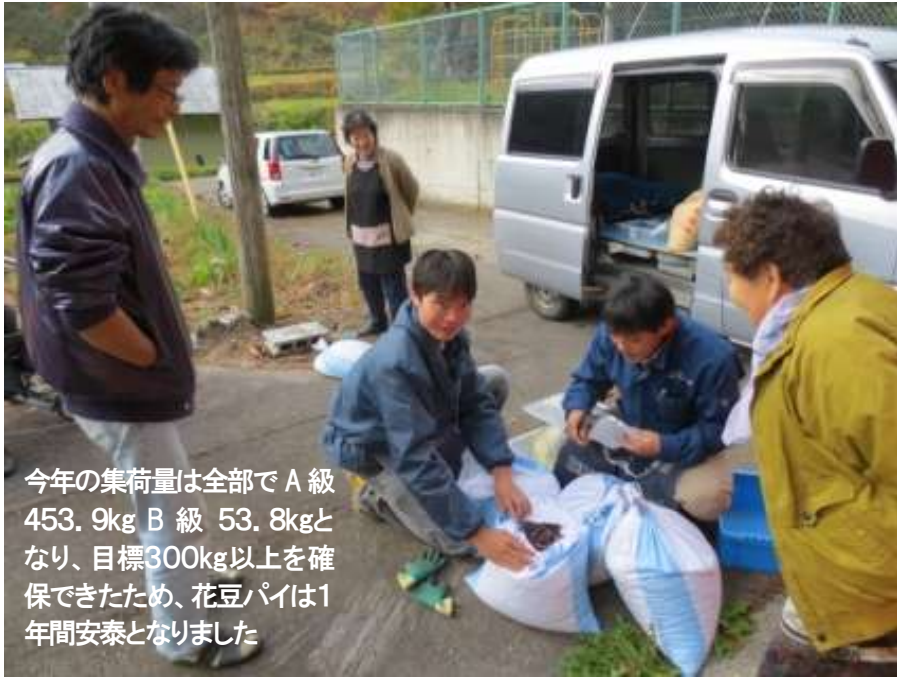


# 山桜の里 戸赤

## 栽培 豆花

# 花豆パイ 原料確保 ことしも 安泰

10月31日ことし2回目の集荷



今年の集荷量は全部で A 級 453.9kg B 級 53.8kgとなり、目標300kg以上を確保できたため、花豆パイは1年間安泰となりました



今年の作柄は良くてみんな笑顔



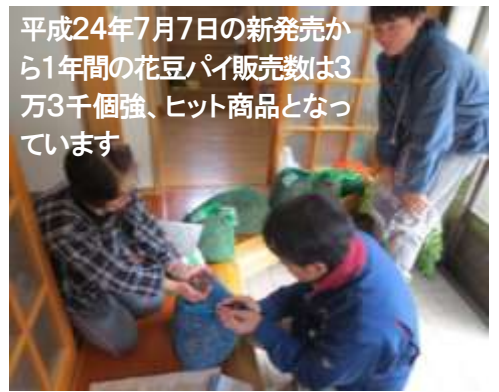
花豆パイの強みは、原料生産者自らがお菓子になった商品をおみやげなどに使い、自信をもって広めていることです



どの生産者も選別は良好で、引き受ける側の信頼は厚い



乾燥・熟度粒の大きき・ムシクイなど選別の吟味は特産地としての責任



平成24年7月7日の新発売から1年間の花豆パイ販売数は3万3千個強、ヒット商品となっています

(ストーリー性のある村づくりのために) [No.7]・紅梅館前宮 高倉以仁王(もとひとおう)にまつわる伝説 氷玉峠(ひだまとうげ)由来 治承四年の夏、人皇第77代後白河天皇の第二皇子高倉以仁王は宇治川の戦いに敗れ、関東沼田から檜枝岐を経て奥会津を通り、越後国の小国、右馬頭守源頼行(うまのかみみなもとよりゆき・源三位頼政の弟)を頼って落ち延びられる途中、七月十六日山本村(大内)にお着きになり、戸右衛門の家にお泊りになった。翌十七日、里人の案内で越後を目指し高峰峠まで出立したが、急に暴風雨となり前進もならずして山本村に引き返し、明けて十八日改めて進発した。この日平家方柳津の住人石川有光が聞きつけ、栃沢の方より多勢で高峰峠まで押し寄せた。時あたかも一天にわかにかき曇り、雷鳴とどろき沛然たる雨雹(あられ)が氷玉となって台地を叩きつけ、逃げる石川勢に追い打ちをかけた。後日以仁王が越後へ向かう途上、たまたま追っかけて行った有光は天罰を蒙り、只見郷の手前で渡部丁七に首かっ切られて戦死した。以仁王主従の陣には雹氷害はなかったが、天候が回復するまで二日間山本村に逗留した。その時山本村を改め大内村と村名を賜り、高峰峠は氷玉峠と変わった。「高峠の風吹き戻す山本に心とどめし道しるべして」とお詠みになって、戸右衛門におくだしになった。里人は宮の親筆になる御歌を、高倉大明神とあがめてお祀りしている。以仁王は、それから里人のすすめに従い、大内から倉谷を通って、安張・沢口・磯上・志源行・石井・日影・原を経て戸石にお泊り、次の日も道を変えて西進し、途中で石川有光の首を取り、越後の国は小国城を目指して落ち延びられた。(「下郷町史」第5巻民俗編

(発行・下郷町)より出典(続)

# 花豆・コーヒセットで お客様の声をきく



このアンケート調査は、道の駅しもごう・俳お  
くや・南会津農林事務所・会津農林事務所4者  
の共同で行われました

花豆パイの購買意  
欲を高め、商品ロス  
を減らすことなどを  
目的に、消費者の反  
応や提供する側の課  
題を調査するため、道の駅しもごうレストランを拠点に  
今年の3月ごろ約1か月間、花豆とコーヒーストを販  
売してアンケート調査が行われました。会津農林事務所  
からその結果が報告されましたので、3号にわたり集計  
表のコーヒーストを掲載しお知らせします。  
花豆とコーヒーストの価格は400円でした。その  
理由は花豆が1個160円、コーヒーストが300円である  
ことから割安感のある商品として提供されました。

## お客様アンケート 結果 《下郷花豆パイティースト》

### 1. 基本項目

- (1) 性別  
 男 ( 61名)       女 ( 67名)
- (2) 年齢  
 20歳未満 ( 0名)    20代 ( 5名)    30代 ( 4名)    40代 (5名)  
 50代 (19名)    60代 (57名)    70歳~ (33名)
- (3) お住まい  
 会津地方 (11名)    福島県内 (会津地方以外) ( 42名)  
 県外 (都道府県名: ) (埼玉県 25名) (栃木県 16名) (茨城県 3名)  
(千葉県 2名) (横浜 3名) (神奈川県 6名) (東京 7名)  
(静岡県 2名) (宮城県 1名)

### 2. セットについて

- (1) 価格はいかがですか?  
 高い ( 44名)    妥当 ( 52名)    安い ( 19名)  
→ お客様が妥当と感じる値段を御記入ください  
( 400円 24名) ( 450円 1名)  
( 500円 37名) ( 600円 2名)  
( 700円 1名)
- (2) 量はいかがですか? (飲み物も含めて)  
 多い ( 6名)    ちょうど良い ( 114名)    少ない ( 6名)
- (3) トッピングはいかがですか?  
 多すぎる ( 9名)    パイに合ったトッピングだと思う ( 80名)  
 少し物足りない ( 11名)

※お客さまが望むトッピングがあればお聞かせ下さい。

(例: 季節のフルーツ、地元ならではのもの、〇〇な味のソース等)

- ・パイがおいしいから生クリームいらない。フルーツでも良い1切
  - ・トッピング苺など、600円にして生クリームの上にイチゴ等1コのせる
  - ・ブルーベリー的なものをちよっと・・・
  - ・花豆はいいですね
  - ・季節のものを取り入れる
  - ・リンゴ、もも、バニラアイス、イチゴ、柿
- 生クリームなので600円が妥当、フルーツ又はジャムはソースを付けると700円超えるのでは・・・
- ・フルーツ類、ハーブ類、野菜フルーツなど最近の流行

アンケート調査の結果集計表

【木地の学習No.37】400 匁という金額は銀 400 匁ということであり、金に換算すると、この当時の相場は金一両につき銀約 62 匁であったことから、一人分は 3 両強の金額になる。記述はこの氏子駈帳が唯一であるので、近世を通じて回国人の支給費用が常に同じであったとは断定できないが、参考程度にはなるだろう。君ヶ畑については判明しないが、蛭谷と大差があるとは思えない。寄進金 氏子狩と初穂料は、氏子駈帳に書き留められたものであるが、この記述外に、寄進金や普請金の名目で徴収していることが、領収書ともいふべきものが残されていることから判明する。…君ヶ畑については一枚の領収書に各個人の金額がききされているので、木地頭に渡されたものであろう。弘化二(1845)年昭和村木賊平木地小屋を氏子狩したときのもので、これをもとに氏子駈帳記載の個人の金額と領収書に記された個人の金額を対比したものが表6である。(表6…)氏子駈帳記載との差額一分一朱三五〇文はどうしたのか。この分が旅の費用等にあてられたのだろうか。解明する文書はみつからない。宗旨人別改め願 元文五年蛭谷氏子駈帳の奥書に、回国したのは二人であると書かれていることはすでに述べたが、文政十年、嘉永二年、安政四年にも回国人は二人であった。その他に荷物持ちを伴ってきたことが次の文書でわかる。「…」と村へ触を出している。氏子狩に先立って、まずその支配地の役所へ、願い書を差し出し順回したと思われる。弘化二年八月御蔵入順回の節、田島代官小笠原信助に出した文書には、「…」と、以前と同じように人別改めを行いたいと願い出ている。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)